

■CIS各地報告

<タイ>

日程	2013年10月27日(日)～11月8日(金)
場所	・タイコーベウエルディング株式会社(企業実習) ・カセサート大学(事前研修、最終報告会)
参加者	・大阪大学:工学研究科2名 外国部学部2名 ・カセサート大学:工学部大学院2名 日本語学科2名
引率者	大阪大学4名

<概要>

現地企業には、2～3ヶ月前から準備いただき、細部までよく検討された計画と正確な時間運営により大変内容の濃い実習となりました。実習の際には社長や幹部も出席いただくなど行き届いた対応をいただきました。

カセサート大学との連携もスムーズで、参加学生全員の英語が一定レベルにあり、両大学の外国語学部学生の日本語、タイ語のレベルは高く、通訳は支障ありませんでした。

企業実習では、ラジオ体操など日常行事等にも参加し、現地のリアルな勤務状況を体験。文化体験では、寺院、バンコクの下町訪問、現地関係団体との懇談会などを行いました。合宿方式が功を奏し、学生たちは最初からリラックスした雰囲気でした。

学生たちに事前に提示された課題は「海外日系企業における現地化の問題と対策」であり、最終報告会に向けAグループが設定したのは「現地化の実態と課題」、Bグループが設定したのは「コミュニケーションの実態と課題」で、互いの意見交換や討議もあり興味深いものになりました。

実習最終日には学生個々の感想を企業の方々に述べ、最終報告会では、Aグループ、Bグループに分かれ、グループ発表を実施。

日本語、タイ語の両方で行われ、パワーポイントは英語で作成。企業、現地大学、大阪大学の代表がすべて参加しましたが、これは日系企業とのつながりを推進する上でも有効なことです。

短期間のCISでは事前に課題を設定して進めることが重要であり、事前研修や実習をタイ語で行ったのは効果的でした。ただ、報告書作成に必要な情報を十分に収集できない面があり、日程不足が否めない感があります。現地で効率良く情報が得られ

るよう事前にすりあわせを行い、現地では、より課題に密接な立場の人に話を聞く機会を増やすことが必要と思われます。その他、CISの諸準備や現地での交通宿泊の手配などを学生にさせる、あるいは現地大学との連携なども今後の課題として検討が望まれます。